

公共交通利用促進施策の全体像 及び過年度の施策評価について

0. 公共交通利用促進とは？

公共交通を利用しやすい環境を整えることで、市民や来訪者の移動手段として公共交通が選ばれるようにする取組

A. 公共交通を便利にする（ハード施策）

- ・供給力向上 ⇒ 増便、運行時間拡大 等
- ・輸送力向上 ⇒ 連接車両導入 等
- ・速達性向上 ⇒ 専用レーン整備、快速便等の運行 等
- ・定時性向上 ⇒ 公共車両優先システム（PTPS）の導入拡大 等
- ・乗換改善 ⇒ 交通結節点整備 等

B. 利用しやすくする（ソフト施策）

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (1)わかりやすい情報提供 | ⇒ バスロケ、路線図、多言語化、サイン 等 |
| (2)快適な利用環境の整備 | ⇒ バス停ベンチ設置、バス待ち処の整備 等 |
| (3)乗車に対する心理的ハードルの低減 | ⇒ 乗り方教室 等 |
| (4)乗換改善 | ⇒ 新共通定期券の導入 等 |
| (5)料金施策（サブスク等） | ⇒ わくわく1 DAYパス 等 |
| (6)車内の混雑緩和（ピーク時間帯の需要分散） | ⇒ 快速バス運行、時差出勤 等 |
| (7)キャッシュレス化の推進 | ⇒ タッチ決済導入 等 |

C. 行動変容を促す（需要喚起施策）

- | | |
|------------------------|----------------------|
| (5)料金施策（サブスク等）（再） | ⇒ わくわく1 dayパス 等 |
| (8)公共交通利用のきっかけづくり | ⇒ バス・電車無料の日 等 |
| (9)商業施設等との連携による利用機会の創出 | ⇒ サクラマチ映画館×交通券サービス 等 |
| (10)観光客向け施策 | ⇒ 熊本城周遊バス 等 |

近年の公共交通利用促進施策

観点	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①わかりやすい 情報提供	バスガイドマップ、バス案内番号の英数化、バスきたくまさん、バスロケモニター				
				Myバス時刻表	
				バス時刻表学校内掲示	
②快適な利用環境の 整備	電停のバリアフリー化、車両のバリアフリー化、車内フリーWi-Fi、バス待ち処				
				バス停ベンチ設置	
③乗車に対する心理的 ハードルの低減	小学生向け乗り方教室		高齢者向け乗車体験		小学生向け乗り方教室
④乗り換えしやすさ	おでかけICカード、パーク＆ライド				
		共通定期券（くまモンICカード）			
				新水前寺駅バス停設置	
⑤料金施策	熊本城周遊バス、わくわく1dayバス、サンコーバス65				
		駅から西高バス			
				まちなかフリーパス	
				半額バス	オフピークタッチ決済割引
⑥車内の混雑緩和				ヴォルターズ臨時便	
					南熊本快速バス オフピーク出勤等推進
⑦キャッシュレス化の 推進			クレカ等タッチ決済（市電）		
				クレカ等タッチ決済（バス）	
⑧公共交通利用の きっかけづくり	バス・電車”元気”フェスタ				
		高校オープンスクール、合格者説明会での周知			
		バス・電車無料の日（全5回）			
			100円ウィーク		
⑨商業施設等との連携					サクラマチ映画館 ×交通サービス券

※⑩「観光客向け施策」については、全て他施策の再掲のため、ここでは掲載しない

1.これまでの公共交通利用促進施策について・・・B:これまでの取り組み

■ B. 利用しやすくする（ソフト施策）・・・これまでの取り組み

※ 事：事業者で実施

※※高：高齢者・障がい者 学：通学者 勤：通勤者 観：観光客

No.	観点	施策名※	対象※※	現状	実績等
①	わかりやすい情報提供	バスガイドマップ（路線図、乗場案内）	全	継続中	—
		バス案内番号の英数化	全	継続中	(例)旧「南18」 →新「M(方面)6(主要経由)-1(第2経由)」
		事Myバス時刻表(複数社の時刻表を、まとめて表示)	全	継続中	ページビュー数：90,709回（R7.4～R8.2）
		事バスきたくまさん(リアルタイム運行情報)	全	継続中	ページビュー数：148,060回（R7.4～R8.3）
		バス停・電停へのリアルタイム運行情報の表示及び多言語化対応 事 ※バス・市電ロケーションモニターの設置（接近情報） ※スマート電停（接近情報、路線図）の設置	全	継続中	■ロケーションモニター（多言語化対応） バス停：県内17バス停56モニター 電 停：全35電停中主要5箇所 ■デジタルサイネージ（多言語化対応） バス停：県内5バス停14機 電 停：全35電停中主要10箇所設置
		事バス時刻表学校内(高校)掲出	学	継続中	鹿本高校、鹿本商高、御船高校
②	快適な利用環境の整備 ※待合～乗車中	バス停へのベンチ設置	全	継続中	349箇所(R8.4時点)
		事車内フリーWi-Fiサービス導入	全	継続中	一部事業者の一部車両で導入 (熊本電鉄、九州産交バス、熊本市交通局)
		バス停・電停等へのバスロケーションモニター設置(再)	全	継続中	—
		車両のバリアフリー化 事 ※低床バス、低床電車(連接電車)の導入	高	継続中	低床バスの導入率：60.1%(R8.3時点) 低床電車の導入率：29.6%(R2時点)→40.0%(R8.3時点)
		電停のバリアフリー化	高	継続中	35箇所中、16箇所対応済
		バス待ち処	高	継続中	71箇所(R8.6時点)
③	乗車に対する 心理的ハードルの低減	事高齢者向け乗車体験withソフトバンク	高	継続中	年1～3回実施(R7年度は未実施)
		事高齢者向けのおでかけマップの作成	高	実施予定 (R8～)	—
		小学生向けバス乗り方教室	学	継続中	3校実施(R7年度)
④	乗換しやすさ	おでかけICの機能強化	高	検討中 (R8～)	バス5社・電鉄電車に加え、熊本市電も利用可
		事新共通定期券の導入検討	学、勤	継続中	—
		JR新水前寺駅高架下へのバスベイ整備	学、勤	継続中	—
		パーク＆ライド、サイクル＆ライド	勤	継続中	290台契約/394台可能(R8.4時点)

1. これまでの公共交通利用促進施策について・・・B:評価、対応策等

■ B. 利用しやすくする（ソフト施策）・・・評価、対応策等

No.	観点	評価	対応策等
①	わかりやすい 情報提供	- リアルタイム運行情報（多言語対応含む）や時刻表集約表示、など、デジタル化への対応については、一定程度、基盤を整備 - 現場（リアル）の視点で取り組むべき課題は多い	- 同名バス停で複数乗り場がある場合（通町筋など）の乗車場所がわかりにくい ⇒わかりやすい案内サインの充実 等 - バスの系統（英数字）がわかりにくい ⇒系統別に色分け など - 時刻表が複数あり、わかりにくい ⇒各社共通時刻表 等 - どのバスに乗ればいいのか、わからない ⇒目的地別時刻表、車両サインの充実 等 - バス停名称が道路側からしか見えない 「バス停に行けば一目でわかる」水準 - エリア単位のわかりやすい公共交通情報の提供 等
②	快適な利用環境の整備 ※待合～乗車中	バス停へのベンチやバス待ち処の設置、低床車両への更新など待合等の快適性は着実に向上。	継続的に取組を推進
③	乗車に対する 心理的ハードルの低減	- 乗り方がわからない、支払いが不安*など、利用者の心理的ハードルを下げる非常に重要な取組みであるが、断続的な取組みに留まっている ※市電では全国共通ICカードは乗車と降車で2回タッチするのにクレカ等のタッチ決済は降車時の1回で良い、どこにタッチすればよいかわからない、決済方法の案内がわかりにくいなど	- 効果的な取組にするには、計画的に、一定程度の回数を毎年継続的に行うことが必要 - 決済方法がわからず案内もわかりにくい→乗車が怖い→乗らない人の解消
④	乗換しやすさ	- バス、市電、電鉄電車を1枚で利用できる新共通定期券は、料金的な乗換抵抗を大幅に軽減し、新規利用者の獲得も期待される。 - パークアンドライド駐車場の整備・利用拡大には、自家用車よりも公共交通利用の方が、目的地に早く到着する等の施策と一体的に取り組む必要がある。	- 新共通定期券導入時には、既存利用者等への周知・丁寧なサポートが必要 - パークアンドライド駐車場の整備に併せた、快速バス等の運行 等

1.これまでの公共交通利用促進施策について・・・B、C:これまでの取り組み

■ B. 利用しやすくする（ソフト施策）・・・これまでの取り組み

※ 事：事業者で実施
※※高：高齢者・障がい者 学：通学者 勤：通勤者 観：観光客

No	観点		施策名※		対象※※	現状	実績等
⑤	料金施策 (サブスク等)	広域・複数 モード利用	事	わくわく1dayパス(1日定額パス)	観	継続中	①市内主要：R6年度10,639枚⇒R7年度12,260枚(販売実績(紙＋WEB)) ②市内広域：R6年度17,231枚⇒R7年度23,230枚(販売実績(紙＋WEB)) ③県内一円：R6年度3,085枚⇒R7年度3,448枚（販売実績(紙＋WEB))
		回遊性向上		熊本城周遊バス(200円均一) まちなかフリーパス ※200円均一エリア土日祝日300円/日乗り放題	観 他	継続中 社会実験中	利用者数：R2年度40,815人⇒R7年度92,758人 利用枚数：R6年度2,549枚⇒R7年度6,818枚
		ターゲット 特化	事	高齢者向け特別定期(サンコーパス、ICシニアパス 6 5)	高	継続中	サンコーパス：2,640回（R7推計値） ICシニアパス65：3,855回（R7.4～R8.2実績値）
				おでかけICの機能強化(高齢者、障がい者）（再）	高	検討中(R8～)	バス5社・電鉄電車に加え、熊本市電も利用可
			事	新共通定期券の導入検討(通勤、通学等）（再）	学、勤		
		事	駅から西高パス(通常に通学定期よりも非常にお得)	学	継続中	販売枚数：R6年度305枚 ⇒ R7年度391枚	
		渋滞・ ピーク分散	事	渋滞対策と連携したオフピークタッチ決済割引キャンペーン	学、勤	終了(R7.12)	タッチ決済率2％（7.6万人）増（R7.12）
事	渋滞なくそう！半額パス		学、勤	終了（R6.10～ R7.2）	公共交通利用が増えた人の4割が自家用車から転換		
⑥	車内の混雑緩和 (ピーク時間帯の 需要分散)		事	低床電車(連接電車)の導入(再) 南熊本快速バスの運行（社会実験） JR新水前寺駅高架下へのバスベイ整備(再)	高 学、勤 学、勤	継続中 終了（R8.2） 継続中	連接車両の導入率：29.6%(R8.3時点) 1便あたり利用者数最大235人、利用者の98％継続希望 －
			事	新共通定期券の導入検討(再)	学、勤	検討中(R8～)	バス5社・電鉄電車に加え、熊本市電も利用可
			事	渋滞対策と連携したオフピークタッチ決済割引キャンペーン(再)	学、勤	終了	－
			事	渋滞なくそう！半額パス(再)	学、勤	終了	－
				県や企業と連携したオフピーク出勤等の推進	勤	継続中	一日あたり平均10,687人参加（R7.9）
			事	ヴォルタース試合後の臨時便運行	他	継続中	利用者数：685人/28日運行（R7年度実績）
		⑦	キャッシュレス化 の推進		事	クレジットカード等タッチ決済導入	全
	事			高齢者向け乗車体験withソフトバンク(再)	高	継続中	－
	事			新共通定期券の導入検討(再)	学、勤	検討中(R8～)	－

■ c.行動変容を促す（需要喚起施策）・・・これまでの取り組み

⑧	公共交通利用の きっかけづくり	バス・電車100円ウィーク	全	終了（R6.2）		1回実施 利用者数前週比1.18倍（R6.2.5～2.11）
		事 利用促進キャンペーン(バス・電車”元気”フェスタ)	全	継続中		来所者数：3,589人(R7.10.13開催)
		事 高校オープンスクール、合格者説明会にける周知活動	学	継続中		県内15校
		小学生向けバス乗り方教室(再)	学	継続中		3校実施(R7年度)
		熊本城周遊バス 1日乗車券×施設割引	観	継続中		—
⑨	商業施設等との 連携による 利用機会の創出	まちなかフリーパス×施設割引	観、他	社会実験中		—
		事 サクラマチ映画館×交通サービス券	他	継続実施検討中		利用実績：1,515枚（R7.4～R7.8の75日間）
		事 ヴォルタース試合後の臨時便運行(再)	他	継続中		利用者数：685人/28日運行（R7年度実績）
⑩	観光客向け施策	わくわく1dayパス(1日定額パス)(再)	観	継続中		—
		熊本城周遊バス(200円均一)(再)	観	継続中		—

1. これまでの公共交通利用促進施策について・・・B、C:評価、対応策等

■ B.利用しやすくする（ソフト施策）・・・評価、対応策等

No.	観点	評価	対応策等
⑤	料金施策（サブスク等）	・利用者増への一定の効果はある ・恒常的な無料化や大幅割引は持続的な施策展開に課題	・公共交通利用の定着が図られるよう、より目的や対象、時間帯等を明確にした料金施策を推進
⑥	車内の混雑緩和（ピーク時間帯の需要分散）	・バス、市電を1枚で利用できる新共通定期券の導入により、利用の平準化と混雑緩和を期待 ・県や企業と連携したオフピーク出勤は渋滞が緩和するなど一定の効果	・タッチ決済を活用したオフピーク割引の断続的な実施や、企業との連携による通勤需要の平準化(オフピーク出勤等)など、需要側への働きかけを強化 ・運転士不足が深刻化する中、限られた輸送力を有効活用(ピーク時増便等)する観点から、車両のダウンサイジング化等の取組みを推進。
⑦	キャッシュレス化の推進	・現金利用者が、30%程度存在しており、降車時の混雑や定時性、速達性の低下に影響 ・各交通モードで、どの決済手段が使えるか分かりにくい	・バス・市電・電鉄電車 で利用可能な新共通定期券の導入を契機として、更なるタッチ決済の利用促進

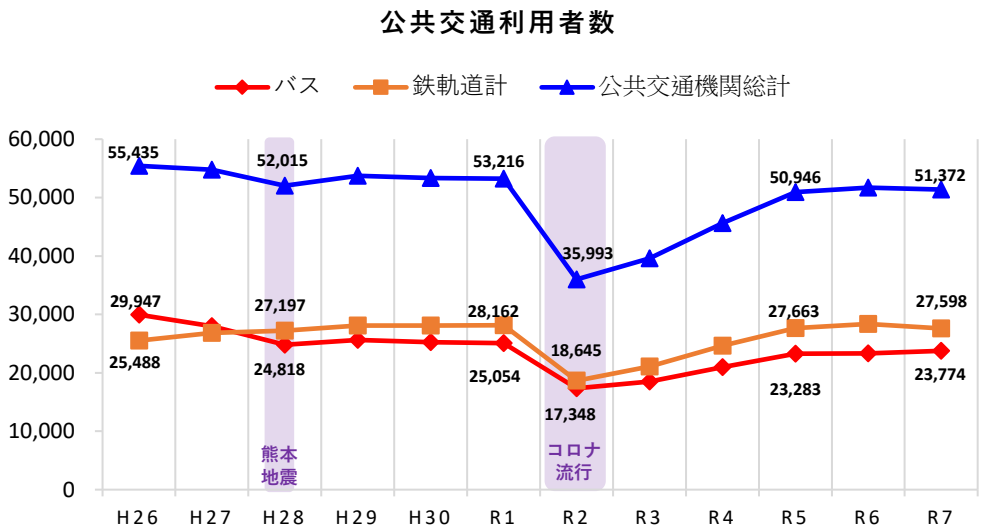
■ c.行動変容を促す（需要喚起施策）・・・評価、対応策等

⑧	公共交通利用のきっかけづくり	・公共交通を普段使わない層の体験機会を創出する点では、一定の役割を達成	・各種入口施策により初めて利用した方を、どのように定着させるかが大きな課題
⑨	商業施設等との連携による利用機会の創出	・熊本ヴォルターズとの連携施策のように、駐車場が足りない、誰に、いつ利用してもらうかなど目的や対象が明確な場合、利用者の習慣化を促進しやすく利用者の行動変容に繋がりがやすい ・このようにイベント開催時などに、車で来ると混む、駐車場が足りない等利用者が公共交通を利用する明確な目的がある場合は非常に有効	・商業施設やイベント主催者が公共交通利用を“自分事”として負担する制度設計が必要 ・公共交通機関利用来庁者へのインセンティブ（割引）施策検討
⑩	観光客向け施策	・観光客は、どのパスを購入・利用すればよいか、わかりにくい ※わくわく1dayパス、熊本城周遊バス、市電1日乗車券 等	・観光客がわかりやすく購入しやすいサイトの整備 等

2. 公共交通利用者数等の推移について

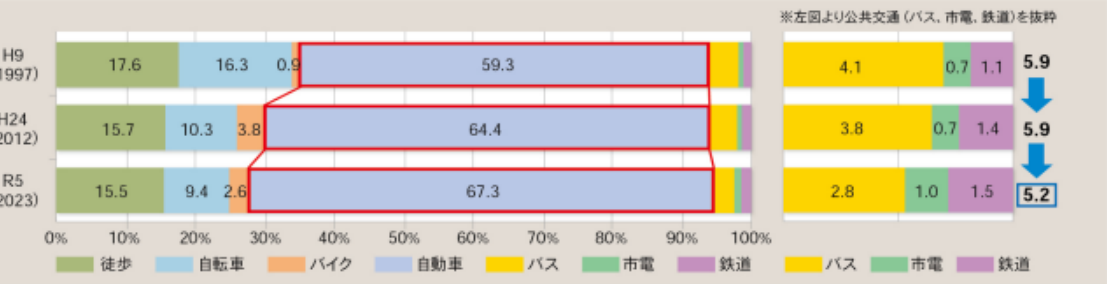
公共交通利用者数の推移

公共交通利用者数は、コロナ禍前の水準まで回復しておらず、「熊本地域公共交通計画」に掲げる目標値（56,000千人）にも及ばない。



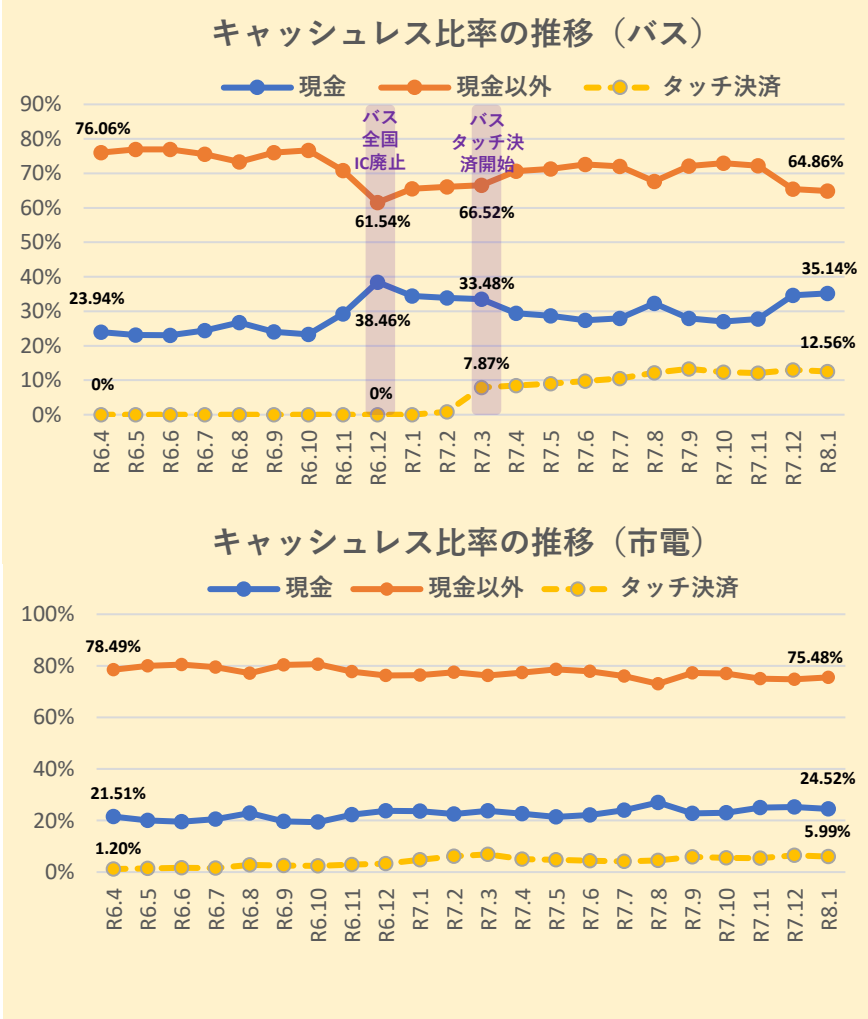
代表交通手段分担率の推移

依然として、自家用車の利用増加傾向に歯止めがかかっていない。



キャッシュレス比率の推移

バスにおける全国共通ICカード廃止により、現金比率が20%程度から30%程度に上昇。一方、タッチ決済利用については緩やかであるものの概ね増加傾向。



3. 今後の方針について(案)

これまでの利用促進施策は、個々の取組としては一定の効果があったものの、**全体としての方向性を十分に整理しきれていない面があった**。今後は、以下の2点に重点を置き、取り組みを推進。

■より利用者目線に立ち、利用促進の土台となる環境整備を着実に推進

- ✓これまで、**わかりやすい情報提供や快適な利用環境の整備、乗車に対する心理的ハードルの低減**など、公共交通利用の基盤となる取組を進めてきた。
- ✓これらは利用者数の増加が直ちに見えにくい取組ではあるものの、**誰もが安心して利用できる環境を整えるうえで欠かすことのできない極めて重要な施策**である。✓今後は、**より利用者の視点に立った分かりやすさと利用しやすさを追求し、公共交通利用促進の土台となる環境整備を着実に推進**する。

■乗り続けたくなる施策(定着施策)の推進

- ✓バス・電車無料の日などの**“乗ってみたいくなる施策(入口施策)”**は、利用のきっかけづくりに有効である一方、継続利用には、増便、速達性・定時性向上、乗継改善、共通定期、分かりやすい情報提供など、公共交通そのものの利便性を高める**“乗り続けたくなる施策(定着施策)”**が不可欠である。
- ✓効果が比較的明確なのは、**対象者・目的地・時間帯等が明確な通勤、通学、イベント連動施策**であり、利用者の行動変容に繋がりが**やすい**と考えられる。
 - ※西高バス、ヴォルターズ試合後の臨時便運行、セミコン通勤バス 等
- ✓一方、**料金施策**にも限界があり、『渋滞なくそう半額バス』のように**大きな効果が出た施策もあるが**、割引が恒常化すると財源負担が大きく、持続的な取組みとして継続していくには課題がある。
- ✓このため、**料金施策は単に「公共交通を安くするための政策」ではなく、渋滞緩和や需要分散、イベント来場、中心市街地回遊性向上、観光消費拡大、通勤・通学利用の定着など、政策実現のための手段として戦略的に活用していくことが重要**。

4. 今年度の取組について(案)

今後、熊本交通機構(検討中)の枠組みの中で、より事業者が連携した利用促進策を検討。

■より利用者目線に立ち、利用促進の土台となる環境整備を着実に推進

- ✓より利用者目線に立った施策を展開するために、まずはアンケートを実施。
 - ※現在の取組に対する評価、利用者がどこで困っているか 等
 - ※いただいた意見・提言の中から、すぐできること・時間がかかるものを整理

■乗り続けたくなる施策(定着施策)の推進

- ✓公共交通利用促進補助金を活用し、定着施策を展開
- ✓具体的な実施施策については、交通事業者と協議